

NOW IS.

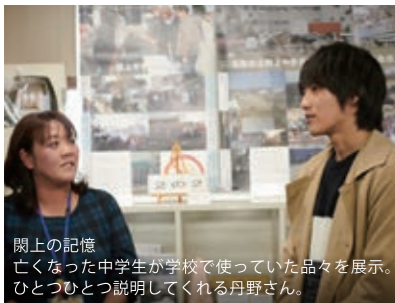
宮城は^{いま}現在も
^{いま}現実に
立ち向かう。

2018.11.11

Vol.
31
November, 2018

ナウイズ
毎月11日発行

小池亮介・in 名取市



関上の記憶
亡くなった中学生が学校で使っていた品々を展示。
ひとつひとつ説明してくれる丹野さん。

「関上の記憶
亡くなった中学生が学校で使っていた品々を展示。
ひとつひとつ説明してくれる丹野さん。」

「関上の記憶
亡くなった中学生が学校で使っていた品々を展示。
ひとつひとつ説明してくれる丹野さん。」



ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「ゆりあげ周遊船
「風が気持ちいい」と小池さん。」

「特別な人が被災したんじゃない」。 俳優の小池亮介さんと 名取市の過去と今を聞く。



関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

「関上の記憶
ゆりあげ港朝市のそばにある施設。震災以前の関上地区と津波の映像が見られます。」

それが復興なんじゃないかな。 重なっていくこと。 いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが

それが復興なんじゃないかな。
重なっていくこと。
いろいろな想いが



ゆりあげ周遊船の高谷直樹さんと。

名取 DAY OUT

NATORI

名取で休日

名取市は、雷神山古墳などの文化・歴史遺産が数多くあり、カーネーションやセリの産地。閉上港では、高級食材でもある赤貝が特産物です。東北の玄関口である仙台空港があり、観光客も多く訪れています。



閉上さいかい市場
仮設の商店街ですが、赤貝やセリ、珍味や干物、地酒などが販売されています。

名取市立閉上小中学校
津波により被災した閉上の小学校と中学校が、小中一貫校として新たに開校。地域の防災拠点としての役割も担います。

かわまちてらす閉上
名取川堤防治いに商業施設を建設中。2019年4月に27店舗が出店し、オープンする予定です。



閉上の記憶
閉上中学校跡地に、犠牲となった生徒の遺族会が慰霊碑を設置。当初、慰霊碑を守る社務所でしたが、次第に津波復興祈念資料館として震災の伝承や防災・減災を学ぶ場となりました。今年、ゆりあげ港朝市の横に本設移転し、震災の記憶と命の大切さを伝え続けています。



ゆりあげ周遊船
日本一長い運河である貞山運河を生かした新たな魅力創出として、「ゆりあげ周遊船」を8月11日から約1カ月間、復興が進む閉上地区で運行していました。来年も運航予定で、タブレットを使った震災前の風景との連動や、復興事業が進む度に新規ルート開拓を行っていきます。

北釜ファーム
NOW IS.vol6でも紹介した農業法人。市場になかなか出回らない幻のメロン「北釜クイーン」は絶品です。



佐々木酒造店
閉上地区で創業明治4年の歴史を持つ酒造。震災で蔵が被災したが、損傷の少ないタンクに残っていた酒から「宝船 浪の音 純米酒 閉上」を醸造。現在は、名取市内の復興工業団地の仮設の蔵で酒造りを行っています。2019年10月に、元の場所・閉上に再建し蔵開きを行う予定です。



閉上中学校生徒の慰霊碑
津波で犠牲となった名取市閉上中学校の生徒14名の名前を刻んだ慰霊碑は、2018年に新しく開校した名取市立閉上小中学校の校舎脇に移設。石に掘られた名前の角が消えるくらい、多くの人に触れてほしい、あたたかい慰霊碑であってほしいと、触れやすい形になっています。

佐々木酒造店のリキュール

名取市と岩沼市の沿岸部の砂地で栽培されているメロン「クールボジャ」は、栽培者が少なく「幻のメロン」と呼ばれています。今回取材した佐々木酒造店では、クールボジャを使った純米酒ベースのリキュール「Möwe(メーヴェ)」をつくっています。「Möwe」はドイツ語で「カモメ」という意味で、閉上の空を行き交うカモメと名取の方言「うめーべ(美味しいでしょう!）」をかけているそう。おすすめです!



宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,566人 | 行方不明者数 1,223人 | 2018年9月30日現在宮城県危機対策課調べ

Support Power

PROFILE
名取市 震災復興部 復興区画整理課 技師
ひらしま こころ
平嶋 心さん
兵庫県神戸市より名取市に派遣

the 応援職員

NOW IS.
名取
Natori



名取川堤防から、名取大橋や遠くに蔵王連峰が見えるこの眺望がお気に入りだそう。



「根っこが本当おいしいです」。平嶋さんは、冬の鍋には必ずいれるほど「セリ」が大好きになったそう。



閉上のまちづくりに貢献したい。

「阪神高速道路の倒壊は、幼いながらも衝撃的で記憶に残っています」。そう話す平嶋さんは、兵庫県神戸市出身で阪神・淡路大震災を経験。大学で土木を学び、2014年、神戸市に入庁、2017年4月から技師として名取市に派遣され、復興区画整理課に所属しています。

復興区画整理課では、閉上西地区の土地区画整理事業を担当し、土地の移動のための計算や計画に変更が起きた際の住民説明会を行っています。また、市有地の販売に対する住民からの問い合わせに対応するなどの業務に携わっています。

神戸市では、阪神・淡路大震災で多くの自治体や関係機関から受けた人的支援の感謝の気持ちと、震災の教訓の継承を発信するため、震災当時の職員の所属部署や携わった業務をデータベース登録し、

訓練や実践に生かす「職員震災パンク」を2002年に整備。災害時の支援要員を迅速に選り、業務に心じた経験・能力を有する職員を派遣するためのシステムを設け、東日本大震災にも活用。震災直後の3月12日から先遣隊を宮城に派遣し、現在も派遣を継続しています。

「神戸市からは経験者や実績を積んだ先輩職員の派遣が多いのですが、私も復興へ貢献したいと志願しました。派遣に来る前の年に休暇を利用して、先輩職員に閉上を案内してもらったんです。当時はまだ閉上中学校の校舎や建物が所々残っていたので、今はハード面の復興が進んだなと感じています」。

津波避難計画 避難誘導サイン計画のワークショップに参加するなど、住民と話す機会が多い平嶋さん。関西弁とはニュアンスが違うので、聞き間違えないよう緊張するのですが、派遣と分かるとうっとり話してくださいます。「やっと閉上に戻れる」と想いを話してくださいる方もいて、やりがいを感じます。

「閉上に戻る方と、新しく移住する方が一緒になって、閉上のまちをつくるっていい姿を見られるのはうれしいです。名取市の復興に少しでも役立てられるよう、これからもがんばります」と話してくださいました。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



ゆりあげ港朝市

毎週県内外から約1万人を超える客が訪れる人気の朝市。約50軒の常設店のほか、新鮮魚介の戸端焼きやジューシーな水餃子など、名物グルメがそろいます。一般客が参加しての競り市も盛り上がり。季節ごとに旬の郷土料理が味わえるスペースが登場したり、音楽イベントが行われるなど、何度行っても楽しめます。

- 日時: 毎週日曜日・祝日 6:00~13:00
- ※メイプル館は平日も営業(木曜定休)
- 場所: 名取市閉上5-23-20
- ☎022-395-7211



〈収穫祭〉を開催!

白菜や大根、ネギ、里芋など、新鮮な朝採り野菜を特別価格で販売します。ぜひお立ち寄りください。

- 日時: 12月2日(日) 午前6:00開始

今月のガイド
MONTHLY GUIDE
閉上中学校遺族会 代表 語り部
丹野 祐子さん



「閉上の記憶」で語り部をしてきたのは、閉上中学校遺族会代表の丹野さん。丹野さんは震災当時、公民館のグラウンドにいました。津波が来たとしても床下浸水くらいだろうと、大津波が来るとは想像していません。丹野さんは義理の両親と、当時13歳の息子さんを亡くしました。

2012年4月、閉上の記憶が設置され、翌月から丹野さんは語り部活動を続けています。自身の体験だけではなく、これから起きるかもしれない災害に対して、防災の話も交えます。

「想像力は、生き抜く力になります。あの日、私になかった想像力を多くの人に培ってもらいたいと思っています」。

「1番おもしろいかまぼこ屋」を
引き継ぎ、発展させ
目指したい。



(上)宮城県産の「北限の柚子」「仙台雪菜」「かぼちゃ」「ごぼう」「ずんだ」「完熟赤ピーマン」を練りこんだ「みやぎの雫」。かまぼこチーズの相性は抜群。
(左)震災前の味を「復元」と「再現」することに試行錯誤を繰り返し完成した「吉祥」。しっとりとした艶と風味が自慢。
(右)2012年9月に完成した新工場のそばには、直営店が併設されている。

自分のような若輩者に
多くの方が関わってくれた。

「高校生の時から、催事やイベントの手伝いをしていた、かまぼこの仕事は楽しいと感じていました。東京で就職して社会経験を積んでから、閉上に戻って継ごうと思っていたんです。その「いつか継ごう」から「すぐにでも継ぎたい」と変化したのは、東日本大震災を経験したからでした。

佐々木さんは震災当時、東京の大学1年生。渋谷の電気量販店のテレビで、閉上に迫る津波の映像を目にします。その後、家族が、みなし仮設住宅に入ったのを待ち、4月上旬に名取市に帰省しました。ガレキの山に言葉を失いますが、「このままでは終われない」と佐々木さん自身も思いました。「その年の7月に、名取駅近くの直営店を改築して、創業者である祖父が手づくりする笹かま工房を開設。震災から1年半後には新工場竣工となりました

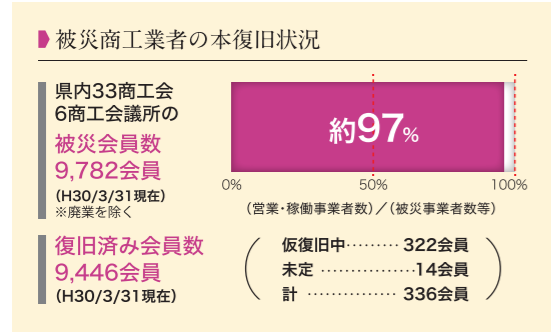
が、そこまでに至る父の苦難は口では言い表せないと思います。」

新工場が完成したのは、大学3年生の9月。「工場が軌道に乗るのは数年かかる。その重要な時期こそ、しっかり手伝いたいと思いました」。就職活動はせず、時間が許す限り東京と名取を往復する日々。「売り場をあけて待ってくださった取引先や、販売を楽しみにしてくれるお客さんがいたこと。それは祖父と父をはじめ、社員が築いてきた信頼があったからこそ。祖父や父の続けてきたことが、改めてすごいことなんだって思いました」。そして卒業と同時に株式会社ささまに入社しました。

入社してからは、これまでの手伝いとは異なり、経営の学校に通ったり、祖父の傍で「手わざ」の技術を学んだり、新商品の開発をするなど、多くのことに携わります。「新工場できり始めた、丸いかまぼこの中にチーズが入った『まるっチーズ』にバリエーションをつけたいと、宮城県の助成を受け

開発したのが『みやぎの雫』です。宮城県産の野菜を練りこんだかまぼこは、「第40回宮城県水産加工品品評会」で「農林水産大臣賞」や、他の賞も受賞し、G7のレセプションに採用されるなど注目されています。「パッケージにこだわると、工場ラインが一工程増えてしまう。そのまま置いただけでは、魅力が伝わりにくいなど、いろいろな面から考えさせられて、勉強になりました」。

名取川沿いに来年4月完成予定の商業施設「かわまちてらす閉上」にも役員として運営に参加したり、海外への販路開拓にも挑戦したり、忙しい日々を過ごす佐々木さん。「社員や家族とともに震災から、がむしゃらに突っ走った7年半でした。多くの方が関わってくださった中で、何か『おもしろいこと』をしたいと思うようになったんです。まだ模索中ですが、『1番おもしろいかまぼこ屋』といわれることを目指し、常に感謝の気持ちを忘れず、さまざまな挑戦をしていきたいですね」。



PROFILE
株式会社 ささま
常務取締役 商品開発 室長
ささま ぎょう
佐々木 堯さん
名取市閉上出身。昭和41年創業の「ささま」の3代目を継ぐべく奔走中。取引先やお客さんが笑顔になれる商品提供はもちろん、従業員が笑顔で働ける環境も整備したいという目標を掲げている。

NOW IS. 31

発行:2018年11月11日 宮城県震災復興本部(事務局:震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493
「復興情報発信プロジェクト NOW IS」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 “震災復興パネル2018”が
完成しました!

県内の復興状況や復興に向けて取り組む方々を紹介するパネルの貸出しを行っています。ご希望の方は、下記問い合わせ先まで連絡願います。

[仕様等]
サイズ:A1 枚数:10枚
貸出料:無料
送料:利用者負担



詳細は [みやぎ復興情報ポータルサイト](#) で検索
☎.県震災復興推進課 ☎.022-211-2408

02 移住・定住イベント開催!!

◆第5回みやぎ移住フェア
～海辺のまちの“わくわく”サミット～

東京都有楽町の東京交通会館に沿岸部の5市町が集まり、トークセッションや動画上映、相談会を通して、「沿岸部の“今”」をお伝えします!

日時:11月18日(日)11:30~14:00
場所:東京交通会館8階
(NPO法人ふるさと回帰支援センター内)
参加自治体:石巻市・気仙沼市・松島町
女川町・南三陸町

☎.みやぎ移住サポートセンター
☎.090-1559-4714

◆みやぎ県の東北地域って“なじよなとこ祭”

県北にある7つの市町が、“県北7(セブン)”として一丸となり、子育て世代と学生の方々それぞれに、教育環境や仕事、住まいなど、これからのライフプランに役立つ情報を紹介し、ご相談にも対応します!

日時:12月1日(土)※2部に分かれています。
●子育て世代向け 10:00~12:30
●学生向け 13:30~16:00
場所:仙台AER 6階
参加自治体:登米市・栗原市・大崎市・色麻町
加美町・涌谷町・美里町

☎.NPO法人おおさき地域創造研究会
☎.0229-25-9956

MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報ポータルサイトは
コチラから!



<http://www.fukkomiyaagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ

宮城発!
元気と食の
最新情報



一般社団法人
IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は、松島の隠れた観光スポット「水主町(かこまち)通り」の「浅野商店」。土日祝日限定、季節の「おこわ」をご紹介します。

語り部が
本当に
語りたこと



宮城県には、東日本大震災での体験や得られた教訓を多くの人に伝えたいと語り部の活動が各市町で行われています。このブログでは、語り部が本当に語りたことを紹介します。

一般社団法人防災プロジェクトの代表理事、中井政義さんから寄稿いただきました。これまで約10,000人の方々に語り部ガイドをしてきた中井さん。心の復興問題や災害への警鐘など、取り組みを語ってくださいました。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 [NOW IS.メールマガジン](#) で検索して登録!

宮城の
「今」を発信
X
TBCラジオ
震災の伝承や
防災・減災に取り組む
活動をご紹介します。

被災地復興応援番組 TBCラジオ※「3.11みやぎホットライン」
防災のヒントや復興の道筋が詰まった番組

東日本大震災発生から1ヶ月後の2011年4月、「震災関連情報をこの先ずっとリスナーに届けていく」という誓いのもと、スタートした報道番組。被災地の現状と課題、歩みをアナウンサーが取材、レポートします。これまで、集団移転に伴い新たなコミュニティで生活を始めた人たち、震災を伝え続けるための活動をする中高生など、さまざまな人たちの思いを伝えるとともに「防災」についても考える機会としています。被災地のいま・未来の命をどう守るか、これからも宮城から発信し続けます。
※毎週月曜日20:00~20:30 FM周波数93.5MHz(TBC=FM) AM周波数1260kHz(仙台)



パーソナリティ 藤沢智子

2018.11.11

Vol.

31

November, 2018

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

NOW IS.



株式会社ささま

佐々木 堯 いづみ

「このままでは終われない」
未来を見据えて挑戦したい。

「スーツを着なれてなくて、すみません。いつもは作業着がほとんどなんですが、今日は東京で会議があって」。照れくさそうに笑う佐々木堯ささき まさひろさんは、笹かまぼ製造会社「ささま」の3代目を継ぐべく、常務取締役兼商品開発室長として奔走中です。

ゆりあげ
「ささま」は、東日本大震災の津波で、関上地区にあった3つ

の工場を消失。現社長の佐々木圭亮きりあきさんは、いったん社員に廃業と解雇を告げましたが、すぐに撤回し、再建を決意します。「口数の少ない父なので、私が感じたのですが「このままじゃ終われない」というのはあったと思うんです。祖父と父と3人で、工場跡地にあった笹かま製造に使う金属の串を拾って、1本1本磨いたんです。その時にそう感じたんです」。